

バラのアーチング法における植栽法

ローテローゼは16株2条植え、ノブレスは12株1条植え両倒しおよび12株2条植え有効

バラのロックウール栽培では、アーチング法による2条植えが一般的で、マット1枚当たり12~16株植えとする事例が多い。しかし、最近では1条植えで栽培する生産者も増えているため、1条植えも含めて最も有効な植栽法を再検討する必要がある。

今回、栽植密度と植え付け条数、さらに1条植えにおける同化専用枝の配置方法が収量、品質に及ぼす影響について試験を行ったので、結果の概要を紹介する。

1. 試験方法

ローテローゼとノブレスの挿し木苗を平成8年5月12日に長さ91cm、幅30cm、厚さ7.5cmのロックウールマットに定植した。マット1枚当たりの植え付け株数は、8株(施設面積1a当たり408株相当)、12株(同612株)および16株(同816株)とし、16株は2条植え区のみ、8株と12株については1条植え区と2条植え区を設定した。6月24日、7月26日および9月5日にシュートを基部から折り曲げて同化専用枝とした。12株1条植え区は、さらに同化専用枝をマットの両側へ均等に配置する両倒し区と片側(本試験では南側)へ全て配置する片倒し区を設定した。

10月1日から収穫を開始し、平成9年9月30日まで収量、切り花長、切り花茎径を調査した。

なお、培養液の給液システムは、カネコロックウールファームシステムを使用した。

2. 結果

2条植えでは、両品種とも栽植密度が高いほど収量は多くなるものの、品質は低下する傾向が見られた。特に、切り花茎径は、12株植えと16株植えでより差が大きかった。また、ノブレスでは収量の差が大きかった。

栽植密度が同じで植え付け条数が異なる区を比較すると、ノブレスでは、収量、品質に差は認められなかった。一方、ローテローゼでは、収量は2条植え区の方が多く、切り花茎径は1条植え区の方が太かった。

同化専用枝の配置については、両品種とも両倒し区の方が収量、品質ともに優れた。

3. まとめ

本試験の結果からアーチング法によるロックウール栽培では、栽植密度および植栽法が収量並びに品質に影響することが認められた。70cm以上90cm未満の切り花比率が高く、各試験区の収量の平均値を上まわる区がよいとするならば、ローテローゼでは16株2条植え、ノブレスでは12株1条植え両倒し、または12株2条植えとするのが有効であると思われる。

(園芸部 伊藤吉成、*嶋本久二)

(*現日本たばこ産業株式会社育苗センター長野)

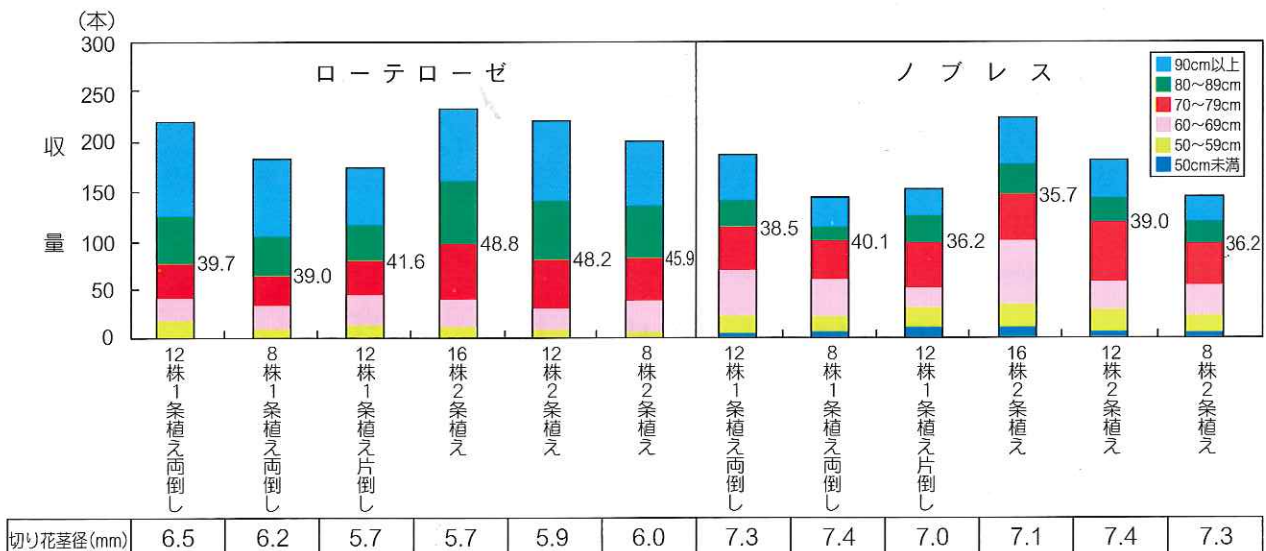


図1. アーチング法における栽植密度および植栽法が切り花の収量並びに品質に及ぼす影響

注) 試験区の表示: マット当たりの植え付け株数(8株、12株、16株) 植え付け条数(1条、2条)
同化専用枝の配置(両倒し、片倒し)

収量は、ロックウールマット1枚当たりの値

グラフの横の数値は、各試験区の総収量に占める70cm以上90cm未満の切り花収量の百分率(%)